

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : リンデンウッド大学

**留学期間** : 平成 25 年 8 月 19 日～29 年 5 月 30 日

今回の報告は2015年度の春セメスターについてです。このセメスターで私の大学生活の半分がすぎました。今セメスターは6クラス18クレジットを取りました。6クラス取りましたが、アートのクラスが多かったので、もう一つくらいジェネラルのクラスを取れば良かったかなと思いましたが、結果はオールAでしたのでとりあえず満足です。下記が私の授業スケジュールです。

月、水、金 8:00-9:00 Orientation to Educational Experiences、9:00-10:00 Elementary Spanish 1、12:00-14:45 Three-Dimensional Design

火、木 : 9:00-11:45 Drawing 1、13:00-14:45 Basic Statistics、18:00-20:50 Ceramics 1

Education のクラスは Art Therapy のコースを取っている私に必要な単位で、教育の歴史から授業カリキュラムの違いから授業計画の立て方、そして special kids へのクラスでの支援の仕方なども学びました。毎授業でディスカッションが求められるクラスで、レクチャーを聞きながら自分の意見を常に持った姿勢を求められる時間でした。今は夏休みで帰国していてアルバイトで英語を教えています。education のクラスを取ってから、どうやって指導するのがベストなのかを常に意識するようになりました。

Spanish は異文化理解の授業で必須科目ではなかったのですが、彼氏がスペイン語圏出身なので興味があり取りました。課題が毎回あり少し大変でしたが、語学を学ぶのはもともと好きなのでとても楽しんで授業を受けていました。Professor も厳しい反面明るく楽しいスペイン人の先生で、クラスメートとペアで話す機会もあり取ってよかったと思いました。スペイン語 major/minor の人はこの後のセメスターでさらに次のレベルのクラスを取っていきますが、私は minor でスペイン語を取っているわけでもないの、これからは独学で学んでいきます。私の学校にはインターナショナル生、特にスペイン語を話す生徒がたくさんいるので、交遊の輪を広げる+スペイン語の練習をできたらいいなと考えています。こうして英語以外の語学も楽しみながら学校に通えるので、そこは留学の醍醐味の一つでもあると思います。

3-D アートのクラスでは、セメスターを通して5つの課題に取り組みました。一つ目はワイヤーシュー、針金を使って靴を作るアート。自分のお気に入りの靴を選び、その形、大きさ、素材感を針金を使って表現するというものです。二つ目は段ボールを使って椅子を作る課題。テーマは勉強用の椅子で、私は座面にラップトップを入れられる隙間を作るなどの工夫を凝らしました。最後の critique (批評) で先生が実際に座るので、潰れないか心配でしたが潰れなかったのでとりあえず成功でした。三つ目はグループ課題で、薄い大きな生地状になったプラスチックを使った大型アートの制作。巨大ラップのプラスチック版をイメージしてもらえれば分かりやすいと思います。四つ目は陶器の課題。好きな詩からイメージを膨らませてそれを形にする課題です。私は金子みすゞさんの「不思議」を選びました。私は2つのピースで一つの作品を構成

したのですが、professor に発想が斬新で良いと誉められました。5つ目は木材から作る作品の台座作りです。生徒一人一人に小さな缶かボールが与えられ、それを作品と見立てて台座を作るという課題だったのですが、完成後の critique で先生が台座を作品の上に置けばさらに良くなる、という批評を何人かの生徒に伝え、そこから熱い討論が始まったのを覚えています。ほとんどの生徒は professor の最初の説明では「台座は作品を（下から）支えるものだ」と理解していたと言い、professor は「支えるとは言ったが下からとは言っていない、支えるという言葉が critical にとらえると、時には発想の転換も必要だ」という風に反論していました。私は先生が説明不足だったということ踏まえると、生徒の作品から点が引かれるならばフェアではないと思いましたが、先生が指摘していた発想の転換が必要、という点は興味深いなと思ったので、そこは意見しておきました。アートのクラスは他のクラスより主体的で枠組みもあまりなく、細部まで議論が行き渡るので、とても参加していておもしろいです。毎回課題完成後にある critique は先生が批評するだけでなく、生徒も全員意見交換をするのでとても刺激になります。

アートは日本では絵画をするなら絵画のコース、ものを制作するなら制作のコース、と言った風に授業を取るのが一般的なようですが（詳しくはありませんがそういう風に聞いたことがあります）、アメリカではいろいろなアートに挑戦することができるのでとても視野が広いと思いますし、自分自身とても楽しんでます。そして、アメリカでは一般的な見方とちがう見解（creativity）は高く評価されるのでその点はアメリカ教育の素晴らしいところだと思います。Education のクラスでも art education についてプレゼンをしました。マイナーと受け取られがちなアートもきちんとスポットライトを当ててもらえるので、アメリカの教育はバランスがとれているなと感じました。

4月には2つ大きなイベントがありました。1つ目は Art Department 主催の student show（展覧会）です。そこに ceramics の授業で作った壺と drawing のクラスで描いた絵が展示されました。入賞にはなりませんでした。アート尽くしのこのセメスターを締めくくるのにちょうどいい機会だったと思います。いつも良くしてもらっている ISF (International Student Organization) のファミリーにも来てもらってとても幸せでした。来年は入賞を狙います。

そして Student Research Symposium & Exposition という、いろいろなデパートメントから様々なテーマについてのプレゼンテーションが集まるシンポジウムにも参加しました。私は 3-D アートのクラスで制作したワイヤーシュウについてのプレゼンをし、これも入賞にはなりませんでした。ジャッジからはたくさん嬉しいコメントがもらえました。そして取材に来ていた友達にプレゼンをして見せたところ、これが学校新聞のフロント記事になりハッピーなイベントでした。

3月下旬には Writing Proficiency Assessment という卒業までに全員受けなければならないテストを受けて、パスしました。WPA は留学生もアメリカ人の学生も専攻に関係なく受けるテストで、ネイティブスピーカーでも落ちる人がいると聞いていたので、少し緊張していました。English の授業を2つ取ってから受けるテストなのですが、不合格だと余分に1つ writing のクラスを受ける必要があったので、合格できてよかったです。

上にも書きましたが、critique や普通の授業でお互い意見交換をしたり、professor にも気兼ねなく反論できるこのアメリカの大学の環境が私は大好きです。そしてこれから留学してみようと思っている、もしくは進路に迷っている方々にアメリカの大学をお勧めしたいです。日本では反論するとあまり良くない印象を持

たれがちですが、アメリカは違います。私の周りには違う意見を言っても、一旦は受け入れてくれる友達、professor がたくさんいます。たとえ議論になったとしても、頭ごなしに否定されることはありませんし、そもそも反論することを嫌う雰囲気がありません。そしてそれはアメリカ以外の国でも共通することだと思います。私はもともと他の人と比べると議論好きだったと思いますが、アメリカでさらに鍛えられたような気がします。そしてこのセメスターは全体を通して自分の好きなアートに触れる機会（ここには書いた以外にもっと）、自分のアートを見せる機会がたくさんありました。私はやっと自分が何をやっている時が楽しいか分かった気がしますし、アメリカの大学はひとりひとりの可能性を引き出してくれる授業や活動がたくさんあると思います。これから留学へ向かうみなさんにも日本とは違った価値観にふれて、自分の可能性を最大限に活かせる素敵な経験をたくさんしてほしいです。